

特集 インタビュー

ただいま

お父さんに

子育てを楽しんでいるか辛いと感じるか



資料出所：社会意識に関する世論調査（平成18年2月調査）内閣府大臣官房政府広報室より

「どういふ家庭をめざしていますか。どういふ子どもに育ててほしいですか？」

心がやすらぐ場所であると同時に、ともに学び、成長できる場所であって欲しいと思います。子どもには人との交わりを通じて、小さいうちから社会性を養ってほしいです。妻とは「子育てにおいて自分たちが大事にしていきたいものは何か」について、よく話し

子どもの世話はやってみればできましたが、家事はほとんど分担していません。妻には料理教室を勧められていますが、掃除等も結婚以来ほぼまかせきりでした。妻は几帳面なほうで、妻なりのやり方があるのだからという思いもあり、でも、分担すればそれだけ早く家事が済み、お互い自由に使える時間が増えると考えれば、そのほうがいいですね。

家事分担は
どうしていますか？

ます。また、仕事や職場の話もします。妻は私にとって、様々な意見を聞ける「よろず相談所」のような存在です。お互いにきちんと言話を聞くことがサポートになると思います。

子育てにおいて、社会的に
どんなサポートを望みますか？

必要な時に子どもを預けられる場所

があるといいと思います。また、子どもと一緒に外出するようになって、いかに公共の場所に段差が多いか実感しました。例えば、駅等のバリアフリー化は不十分だし、妊婦さんに席を譲らない人も多いですね。鉄道会社やバス会社等がもっとPRすべきではないでしょうか。

男性の育児休業や介護休業は制度として私の会社にもあります。有給休暇はお互い様という事で取りやすいのですが、長期の休みを取るとなると周囲の負担も気になり、難しいですね。ただ、上司の理解を得て、次の子が産まれた時は育児休業を取りたいと思います。法制度の整備と同時に、周囲の人特に、上司が理解し、自らが率先して育児休業や介護休業を取得してくれれば、制度として定着すると思います。最近、子どもを巡るトラブルが多く、子育ても難しい時代ですから、男性の育児参加はますます求められるのではないのでしょうか。そういう面でも努力をしている企業は、イメージや社員の定着率もあがると思います。

育児にどう関わっていききたい
ですか？

単身赴任で家族と離れていた悔いから、「この瞬間は今しかない」という意識